

第34期第1回社会教育委員会議 意見等整理表(案)

委員名	内 容	論 点	対応方策	備考
北口委員	学校の中で読書の時間というのは、小学校はとくに大事にしています。学校によって違いはあると思いますが、朝の1時間目が始まるまで10分ないし15分の間を一齐に読書をする時間という風に毎日あてている学校もあると聞いたことがあります。本校の場合は、週1日ですけど木曜日、必ず集中して何か本を読もうというようなことをしたいということで、本に親しむということについては、取り組んでいます。あと、国語という教科のなかで、図書室へ行って本を読みます。小学校は45分が1単位時間ですので、その中で、マナーを身につけて、図書室の本を読んで、そして、図書の本を片付けて部屋に帰る、そういうことも一連の中で、高学年になれば、毎週はなかなか難しいですが、低学年ほどできるだけ毎週1時間はしているというようなことも取組みの中です。			
國光委員	学校には色々な課題があります。コミュニケーション能力の育成や学力も高めないといけない。そういう中で、読書について言うと、中学校では朝の読書ということで取り組んでいる学校が多いです。例えば、昼休みに外で遊んでいて図書室に行かない生徒が本校では多いのですが、そういう生徒でも読書に親しませるといって、朝読書に取り組んでいたり、中央図書館からの団体貸出のものを学級文庫に設置して少しでも本に触れる機会を増やしたりして取り組んでいるのが現状です。資料6、P11に平日に読書がされていないデータがあるが、枚方はとても部活動が盛んです。平日は部活動が熱心で、本校の場合は90%ぐらいの生徒が運動部に所属して、毎日18時くらいまで練習をしています。帰宅後は塾や宿題、勉強ということがあるわけで、そういう中で、読書もしろというのは、無茶です。ここは、図書館のグランドビジョンですから、こういうデータが主の話題になってくると思いますが、中学校は色々なことをしているので、知っておいていただけたらと思います。	学校における子ども読書活動の推進(読書習慣を育てる)	第3次グランドビジョンの課題とする (学校巡回便事業による団体貸出図書の配送による支援)	資料5 方針③ Aの4のa
森委員	親が本を読めば、子どもも読むのかなと思います。最近では共働きが増えています。私の夫の場合は、平日夜の7時までに家に帰ってくるのはありません。そういう状態なので、お父さん世代には利用しにくい時間帯です。土・日しか行けません。女性は口コミや情報を得るのが早いですし、あとインターネットがすごい発達しているので、そこで検索ができるため、私自身は図書館の利用が増えたので、よかったです。ただ、本屋さんに並んでいる本が、そのまま図書館に並ぶにはタイムラグがあったり、人気の本は予約件数が何十件もあり、何ヶ月も待たないといけないというのがあるので、そこが利用しにくい、解消されるといいなと思います。	効果的・効率的な図書館運営	第3次グランドビジョンの課題とする (開館時間帯の拡大)	資料5 方針④ Bの1のb
		資料・情報提供機能の充実	第3次グランドビジョンの課題とする (予約・リクエストサービス充実)	資料5 方針① Bの2
森本委員	私の分野では低年齢のお子さんと接することが多いのですが、本離れというのは感じません。枚方市がやっている1歳のお誕生日のブックスタートから始まり公立の保育所では貸出とかされています。ただ、他のとこと違うのは、兵庫県や京都市では、公立・県・市がやられている子どもたちが集う場には、遊びの施設の中に図書館コーナーがあり、遊びに行っただけに、本に触れ合うというのがあり、枚方にはそういったのがないのが残念だと思います。低年齢の子どもは、本と触れ合う機会をお父さんやお母さんが作られていると思いますので本離れは感じません。昔は少しでも、時間があれば本を開いてという感じだったのが、今は時間があれば、パソコンやゲームをするのかなと、その辺が今の子どもたちが本離れの原因かなと思います。低年齢の子どもたちは逆に本と触れ合う場が増えていっているのかなと思います。	社会で生きていくための知識・技術の育成	第3次グランドビジョンの課題とする (他の公共施設を活用した本棚の設置等の検討)	資料5 方針③ C1のc
川添委員	根本的なところで、本でないといけないのかなと思います。情報を得るためであれば、本でないといけないのかなというのは、前提としてもっています。5年ほどまえであれば、本だと思っていたのですが、今、現状私は新聞はiPadで読みますし、雑誌もダウンロードします。本を購入しようとすると、ネットで購入しています。しかも電子書籍で購入していますので、そうすると本なのかなというのがあります。逆に本でないといけない理由というのを、この情報化の時代で明示しないといけないと思います。資料6、P11の読書時間というのは、本を読んでいる時間のことを言っていると思いますが、情報を取っている時間という読書でなくてもいいのではと思います。パソコンに座って動画を見ているのが、地球の歴史をパソコンを使って勉強しているのかもしれないので、そうすると、図鑑を見るのとの違いはなんなんだろうと思います。読書量というのが、本でなければいけないのかなというのがあります。	資料・情報収集機能の充実	第3次グランドビジョンの課題とする (図書館が収集すべき資料・情報の考え方の明確化[知識・教養・考えるための蔵書と課題解決のための情報資源のバランス]) (電子書籍の導入に向けた積極的な情報収集)	資料5 方針① Aの1のa
青野委員	時代遅れになっても駄目かなと思います。ついていけないから利用されないというのも駄目なので、一方で電子書籍の貸出も視野にいれたほうがいいのではと思います。一步遅れている感というのが否めないです。新しいものが好きな人からすれば感じると思います。臨床心理士の視点からいきますと、やっぱり紙の本がいいなというのがあります。以前スクールカウンセラーをしていた頃に、ある中学校に素敵な司書さんがいて、その人がいるから非行系の生徒も図書館に居つような図書館だったんです。その生徒たちがきたら、こういう本がいいのではという事で本を選んでくれて、その時の悩みや問題にぴったりあうような本を選書してくれるっていう、すばらしい司書さんでした。そこが一つの癒しの場みたいになってたんです。なかなか、そういう司書さんは、今ここ見たら人件費もだいぶ削られているので司書さんを育てるといっては司書さんを育てるといっては、本当に至難の技だと思うんですけど、ただビジネスライクにただ綺麗にお仕事をパソコンでやっていだけではできない仕事ができる可能性がある場所なのかなと思います。大学教員からしますと、本当に本を読ませるのには苦労しているんですけど、不思議と読む習慣をもって入ってきたら本を読むことは勉強とは別ランクに位置づけてある時があるんです。そういう子は何か安定感があるんです。欲張ってビジョンを述べるということではよろしければ、一方方向にしないで、広げて新しいことも見ていき、他が本を捨てていくなら、行政は本を残していくということができないかなと思います。	職員の知識・技術・能力の育成・継承	第3次グランドビジョンの課題とする (専門的な知識・技術の計画的な育成)	資料5 方針④ Dの1のb
西田委員	私も昔は、専門誌を読みながら資料を作ったりしていました。今は、新しい情報が得られるのがインターネットだから、インターネットを使って情報を得て、整理して資料を作るような、そういう時代になってきているなと感じます。でも、本を読むというのは大事です。小さいときに、気づきをさせるにはどうしたらいいのかなというのを感じています。今うちの娘は、土・日ですがね、小学校の小さい子どもたちを集めて公民館かどこかで毎週、PTAの役員の人達と本読みをしていますけど、結構、遊びも入れながらして楽しんでみんな来てますといったことは聞いたんです。遊びの場にも図書があってそれが活用できたらいいのかなと感じました。	社会で生きていくための知識・技術の育成	第3次グランドビジョンの課題とする (他の公共施設を活用した本棚の設置等の検討)	資料5 方針③ C1のc
		資料・情報収集機能の充実	第3次グランドビジョンの課題とする (図書館が収集すべき資料・情報の考え方の明確化[知識・教養・考えるための蔵書と課題解決のための情報資源のバランス])	資料5 方針① Aの1のa
服部委員	小さい時から、本に親しむというのは大事だと思います。ただ、今は、TVやインターネットに目が向いているように思います。			

委員名	内 容	論 点	対応方策	備考
松浦委員	高度な情報化が進んだ、複雑な社会の中で、色々な物がデジタルデータで手に入るようになったわけで、その流れはおそらくこれからも進んでいくと思うんですが、 <u>図書館の基本的な機能、おそらく中心にあるのは本だ</u> と思います。デジタル的なものをこれからも、おそらく色々なところで充実させていくという方向性はより盛んに進んでいくと思います。でも、それでもやっぱり本が基本にあると私は思っています。それについては、いくつかの考え方があって、おそらく人によってそれぞれだと思うんですが、少なくとも、図書館司書、図書館関係者については、「本じゃなきゃ駄目ですか」と言われたとき、「絶対本です」とゆるぎない信念を持って言うことができないと、おそらく図書館の将来はないと思います。つまりそれは、人類にとって図書・本とは、何なのかという風な本質的なところまで、考えてきちっと説明ができるかどうか、そういうことまで考えた上で、図書館運営をするかどうかといった時に、おそらく関わっていく。情報を得るために図書があるかが問題で、情報を得るだけだったら、今わかったら後で忘れてもいいといった捉えかたの情報であつたらインターネットで手に入ります。小さい頃、小・中学という非常に人生の中で重要な時期において本のもつ意味というものを、親、あるいは図書館司書、図書館関係者が伝えることができるかどうか、信念をもってゆるぎない信念で答えることができなかったらアウトだと思います。ペーパーレスになっていくのは、間違いないと思います。情報の観点でいえば本を読むというのは、やはり、紙を中心としたもので、重さ、紙の匂いを感じながら小さいころ寝る前に父親、母親が子どもに物語を読んであげるのとは本でない駄目なんです。本というのは、単に情報を得るものだけでなく、つまり物事を考える、考え方の基礎を作っていくものです。情報というのは、その時だけ、通過して場合によっては忘れてもいいものだと思うんです。色々な考え方がありますが、私の理解では情報と本からもらえる知識の基本というものは全く違うと思うんです。	資料・情報収集機能の充実	第3次グランドビジョンの課題とする (図書館が収集すべき資料・情報の考え方の明確化[知識・教養・考えるための蔵書と課題解決のための情報資源のバランス])	資料5 方針① Aの1のa
福田委員	小・中学校と読書の時間が増えているにも関わらず、大学に入ったら30分をきるほどの読書時間になっています。読書とは何かと言われたときに、知識を得るためだけだったら、すぐにスマホで調べることができます。図書館も知識を与えるだけなら駄目なんだということがわかります。だから小学校のときに、「読書というものをあなたはしてますか」という時に、当然それは、知識をもらうだけではなくて、「何か考えたこと、感じたことあるでしょ、話できますか」、そういう風な経験が読書じゃないかなと思います。新聞を読むことも考えたりすることで当然ですけど、我々が図書館に来て何をしてもらおうかなというときには、 <u>基本的には自分の世界が広がるような、自分の人生に何か刺激になるような、自分を変えられるような、そういうものが本のなかにありますよ</u> ということを示すのが図書館であつて、情報を得るのは何処でもかまわないと思います。ただ、摂南大学の寝屋川キャンパスなんですけど、本が47万冊、年間30万人が右往左往して来ています。しかし、実際に本を借りて読んで色々感じているのは、1割にも満たない、つまり、3万人くらいが本を借りています。残りの図書館に来ている9割の人は何をしているかという、図書館というのは、他の談話室と違ってそれなりに勉強をする雰囲気があつて、それなりにステータスがあるような場所なんです。だからある意味、刺激は受けたいところなんだけど、その活用の方法が我々図書館運営をする側と考えるとずいぶん違うなと思います。今、摂南大学の図書館で考えているのは、図書館に来てもらうことも大事なんですけど、図書館で本を読んだときに、その後、彼らが何をそこで考えたり、何を発信しようとしているのか、俗に言う、文科省が言っているがアクティブあるいは、ラーニングホームズつまり、学習する基盤として図書館が必要であると思います。資料6、P11知識基盤と書いてあるけれども、学習する基盤と考えるべきではないかと思ひます。これからの図書館は、 <u>地域の皆さんがみんな集まって、話をして、もう1回自分たちをつくってみよう、そういう知識を得るのではなくて、学習して行って、みんなで発信するようなそういう風な形に変えていかないと面白くないのかなと、当然そこには、本があつてもいいし、タブレットであつてもかまわない、電子黒板があつてもかまわない、だから、単に本を読んで自分が変わるといっただけではなくて、それも大事なんですけど、今度はそれを図書館というのは、みんなで語りあえる、そういうことが必要かなと思ひます。読書というのは読むだけではなく、自分が感じたことを言葉になおしたり、そういうことができる場所、これからそういう場所にしていくなかなと勝手に思っています。</u>	地域社会の結びつきの再生に向けた支援	第3次グランドビジョンの課題とする (図書館主催事業や地域活動とタイアップした人と人とながつながる場の提供)	資料5 方針② Bの1・2
川添委員	ビジネスをやっているとしても読書が盛んであつたり、子どもということ言うと、絵本の読み聞かせ、これをインターネットの機械音でしても意味がないです。そういうことから考えると資料6、P13の読み聞かせボランティアや読書会、ロビーコンサートといったところは図書館機能として、非常に重要になってくると個人的には考えています。本屋をみても、ジュンク堂的な分類で、ここには社会関係、ここには文学というような並べ方から、ツタヤのように体験、登山に行きたい人の本あるいは、休日をうまく利用したい人の本という分類になつたほうが、惹かれるところがあります。キーワードとしては、体験であつたり人の繋がりといったところが本というものの機能、最終的な目的なのかなというのを少し感じました。図書館はそういう場でないといけなし、もつといえ、そういう場を作つたあとに、一般の人が、図書館はそういう場なんだという、PRができないといけなしかなと思ひます。			
森委員	図書館のほうでも、電子機器の導入を今回見送つたというのもあるんですが、 <u>電子機器があれば読み書きができる障害をもつお子さんもいらつしやるので、こちらのほうの充実を是非進めていただきたい</u> なと思います。子育て中なので、読書会や読み聞かせもあるんですけど、実際、お母さん同士の繋がりがそこであまれるかという、なかなかないのでそこに子育てをさせてるサークルと繋がるとか、問題解決というところで、専門の仕事がされているか、図書館で繋がる、なんかそういう役割も図書館にあるとよりいいと思ひました。例えば、不登校関係のテーマを読書会にしてお母さん同士で繋がるとか、子育てでも色々なテーマをそれぞれもっていると、発達障害もそうですし、1人親の世代の家庭もあるだろうし、そういうテーマで読書会をさせても面白いかなと思ひます。メルマガなんかがあると面白いかなと思ひます。	効果的・効率的な図書館運営	第3次グランドビジョンの課題とする (情報関連機器のさらなる導入の検討)	資料5 方針④ Bの2
松浦委員	資料6、P4第2章市立図書館をとりまく状況のところ私の読んだ感じなのですが、図書館のとりまく状況、社会的状況の捉え方がどちらかというと、 <u>社会問題に対する問題意識と捉えられてるところが多くて、例えば、環境問題などの位置づけなど少ししか書いてないんです</u> 。もう少し社会的問題の観点と別の、人類が地球上で生きていくための観点、自然史的な観点も環境問題に関係していくと思ひます。図書館というのは、知の宝庫だと思ひますので色々な人間の問題、それは、人間という社会だけではなく人間を取り巻く自然環境などとも関係していて、温暖化の問題だとか、気象の問題だとか、色々なことが人間の社会に関わっているんだという捉え方があって、初めて図書館の意味というのがでてくると思うんです。前段の取り上げ方が、ちょっと社会的な人間のあり方だけに少し片寄つたような気がするんです、もう少し広い観点で人間も生物なのであつて、地球上の生き物であつて環境の中で生きていくのだという風な問題点から環境問題など継続的な生命の維持みたいな観点もあつた上で環境と人間というものを、取り上げていくような観点も若干入つたほうがいいのではと思ひます。	図書館を取り巻く状況として、社会問題と合わせ、環境問題など継続的な生命の維持の課題にも触れる必要性	第2章の本文を加筆・訂正する	資料4 P4「①我が国全体をとりまく社会的状況」の部分を加筆・訂正